

- ◆ 自動車保険の発生損の見通しは。また、足元のクレーム状況は。
  - 上期は業界全体で損害率が悪化している。10月の事故発生件数は落ち着いているが、楽観視はできない。アンダーライティングの強化、エコ安全ドライブの推進等に対応していく。
- ◆ 足元の自動車ロス悪化を、今後予定している料率改定に反映させるか。
  - 2009年の参考純率改定を反映させる改定であるが、損害率を下げる努力もしている。来年4月の損保ジャパンの料率改定幅は現在検討中である。
- ◆ 損保二社の火災の正味収保の増減について、再保険の影響は。経営統合によって再保険戦略の変更はあるか。
  - 損保ジャパンでは海外の大口新規の受再が増え、日本興亜損保は企業の大口増収に伴う出再の増加があった。再保険戦略については、グループとしての最適なスキームについて研究している。経済合理性等も勘案して対応していく。
- ◆ 損保ジャパン・日本興亜損保ともに従業員数が1,700人程度増えているのはなぜか。
  - 損保ジャパンは損害調査子会社の合併と研修生の増加、日本興亜損保は派遣社員の直接雇用化と研修生の増加によるもの。
- ◆ 生保への要員シフトの規模感は。生保合併が主因か。生保への要員シフトによって今後損保の要員は減少に転じるのか。
  - 生保への要員シフトは当面300名規模を考えている。シフトは生保の合併というよりも、国内損保事業の規模拡大に限られる中で、伸ばせる余地がある生保へ経営資源をシフトするもの。生保への要員シフトにより、損保事業の従業員数は今後減少していく見込み。
- ◆ 政策株の売却について、下期の見込みは。
  - 上半期は売却が進んでいないが、個別株の価値評価を反映させた銘柄選定は順調に進めている。下期は着実に売却を進めていく。
- ◆ ひまわり生命の逓増定期の解約の影響をどのように見込んでいるか。
  - 逓増定期の解約は、今後数年間は一定の解約を見込んでいるが、逓増定期自体の割合はかなり減ってきているので業績への大きな影響はない。
- ◆ 自動車保険の収支が悪化するなどの環境の中で、損保二社を合併させるなどの方針変化はあるか。
  - 経営統合は順調に進捗しており、現時点で見直しは検討していない。
- ◆ 統合シナジー2010年度100億円の具体的な進捗状況は。シナジーは年度業績見通しに反映されているか。
  - おおむね計画通り進捗している。シナジーは下期中心だが、システム開発で個社開発分の削減や、コールセンターの共有化、郵送物の統合によるコスト削減などがある。また、ノウハウ共有では、修理単価の削減、エコ安全ドライブの共同推進などを行っている。これらは業績見通しに反映している。
- ◆ 修正利益が変動した場合、株主配当を見直す可能性は。
  - 損保二社の分配可能額は十分な水準。事業計画を着実に遂行することにより、安定配当を維持していくことを基本としている。

以上